大浜中だより　－保護者や地域とのつながり－

潮風

令和２年度
No.11
掛川市立大浜中学校

「子どもが育つ」学校に

「1月は行く」「2月は逃げる」「3月は去る」という言葉があります。これは、お正月から三月まではいろいろな行事が多く、あっという間に過ぎてしまうことをいったものです。

2月となり、3学期も早いもので半分を過ぎようとしています。先日、私立入試が終わり、1ヵ月後には公立入試が控えています。3年生にとって、将来の夢に向かって大きな選択のときです。悩み、考え、迷います。しかし、そうした**一日一日の積み重ねが未来の自分をつくっていく**のだと思います。この貴重な経験から、人として大きな成長ができることを期待します。

上級学級に進級する1，2年生は、今年度の振り返りと次年度への足固めのとき、3年生は3年間の集大成のときです。それが、学校全体の活力となります。子ども個人の力を信じ、一人一人が自分の力で生きていくためのサポートしていきたいと思います。

そもそも『主体性』とは

5人の人がいる中で2人がケンカをしていています。そのため、その場の雰囲気が悪くなってしまいました。さて、あなたはどうしますか。

この状況に対して、西洋的な『主体性』では、個人が主体的にリーダーシップを発揮し、仲裁し、解決を図っていくことが求められます。これは、できるようで実はなかなかハードルが高い行動です。これに対して日本的な『主体性』では、その場が和らぐためにどんなことができるかを**考え**、**行動**します。例えば、隣の子に「A君とB君はどっちも悪くないよね」と周りに聞こえるような声でボソッと言うことなどです。目の前で起きている出来事に対して、「自分は何もできない」と無力感をもったり、「どうせ言っても無駄」という雰囲気では『主体的ではない』と言えます。自分でできる変化を自分なりに起こしていくことが「主体的である」と言えます。必ずしも、西洋的な考え方である“バリバリリーダーシップ”こそが主体的であるとは限りません。

これからは、個々が主体性を求められます。西洋的な『主体性』は必ずしも全員ができるとは限りません。だからこそ日本的な『主体性』を育める環境づくりが学校には必要です。そのために、教育活動のいろいろな場面に、子どもたちが小さな選択をする機会を少しずつ増やしていきたいと考えます。その経験が、「自分で考え、判断し、行動できる」力を育むことにつながります。行動すると失敗はつきものです。失敗してもやり直す経験が学びです。そんな**“子どもが育つ学校”**づくりを大切にしたいです。

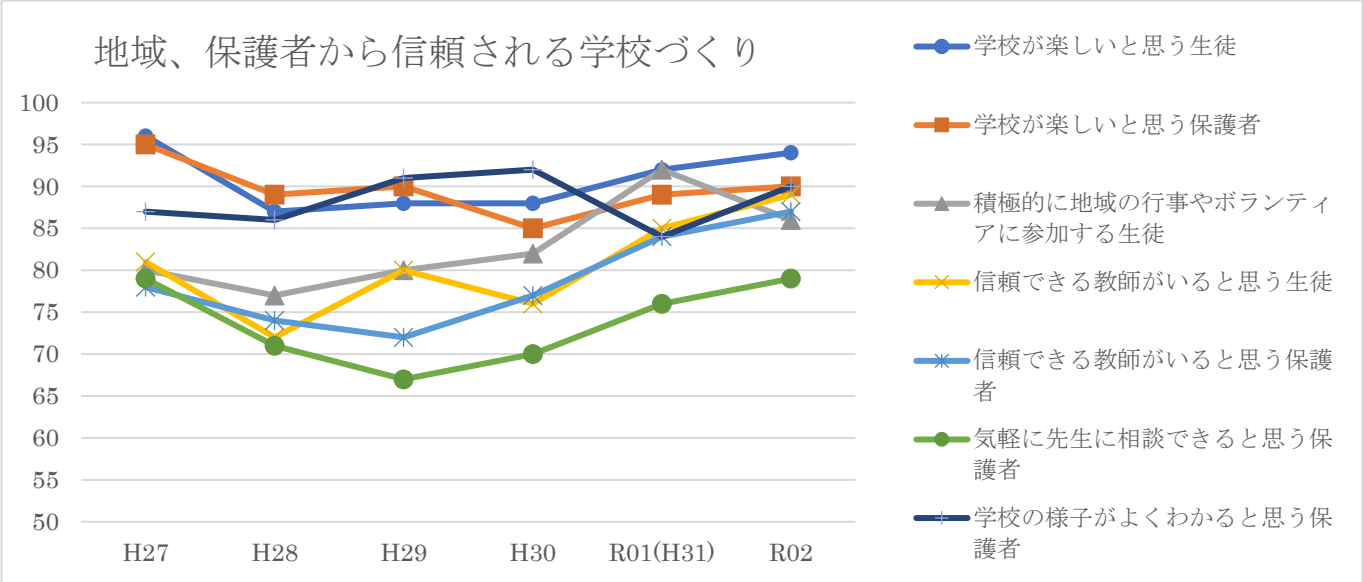
最後に、「主体的に生きている人間でないと、主体性を知ることはできない」と言われます。我々教師も主体的であることが問われます。授業や行事、委員会活動、部活動と子どもたちの主体的な学びを進める技術云々の前に、教師（指導する側）自身が主体的な生き方をしていかなくてはなりません。

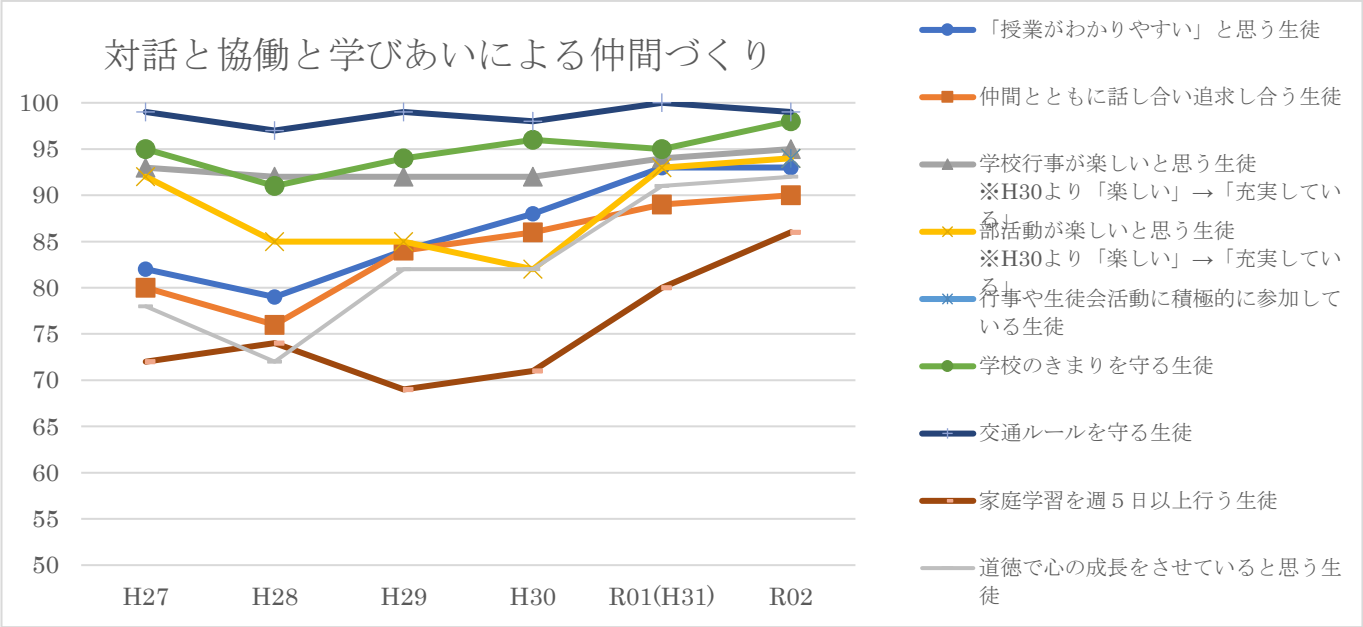
校長　赤堀　智生

－令和２年度の成果と課題（学校運営協議会を終えて）－

11 月に実施した保護者・生徒アンケートの結果を踏まえ、１月 28 日に「学校運営協議会」を開催しました。今年度の活動状況と生徒・保護者アンケートの結果を報告し、今年度の本校の教育活動を総括していただきました。全体的には肯定的な御意見が多く、引き続きこの方向で取り組むことを確認しました。学校運営協議会で出された意見等は、次年度の教育活動に反映していきます。

■目標に向けた評価指標の達成状況（アンケート調査の結果と分析）





＜考察＞結果から、目標(学校ｶﾚﾝﾀﾞｰに明示)は概ね達成できたと考えられます。特に、昨年度目標を達成し、目標を上方修正した項目のうち、今年度さらに達成できた項目が２項目あることや目標を据え置いた項目のうち昨年度より評価があがった項目も３項目あること、さらには２年連続目標が達成されなかった「保護者からの相談体制や保護者・生徒から教師への信頼」に係る項目が向上してきていることから、教育活動全体が良好に推移していると判断できます。今後も、学校運営協議委員からの指摘のとおり、アンケート結果等の客観的指標と直に生徒・保護者と接している教職員の主観的感覚との両輪の PDCA サイクルで学校運営の向上を図り、「地域とともにある・地域が誇れる大浜中」を目指して取り組んで参ります。

＜各家庭へのお願い＞

毎朝、自宅での検温は継続しますので、健康チェックカードと合わせてお願いいたします。全国では、新型コロナウイルス感染症が拡大の状況となっています。首都圏には、緊急事態宣言も出されています。引き続き御家庭においても感染拡大防止対策をよろしくお願いいたします。